

# 新規98万ト、再生204万ト

アスファルト  
協東北 24年4—12月製造量

日本アスファルト合材協会 東北支部（野口秀典支部長）は、会員企業が保有する2024年度第3四半期（10—12月）までのアスファルト合材製造数量をまとめた。新規合材は前年同期比3・4%増の98万ト、一般工事などに使用される再生合材は県市町村発注工事の減少に伴い10・2%減の204万8000トで、合計は6・2%減の302万

2024年度アスファルト合材製造数量

	合材	第3四半期(10—12月)	
		数量(ト)	前年度比(%)
青森	新規	66	(20.0)
	再生	117	(▲14.6)
	小計	183	(▲4.7)
岩手	新規	52	(15.6)
	再生	125	(4.2)
	小計	177	(7.3)
宮城	新規	105	(9.4)
	再生	148	(▲27.5)
	小計	253	(▲15.7)
秋田	新規	15	(▲34.8)
	再生	109	(▲9.2)
	小計	124	(▲13.3)
山形	新規	42	(▲32.3)
	再生	102	(▲33.3)
	小計	144	(▲33.0)
福島	新規	88	(7.3)
	再生	249	(9.2)
	小計	337	(8.7)
東北全体	新規	368	(1.4)
	再生	850	(▲11.6)
	合計	1218	(▲8.1)

単位：千ト、カッコ内は前年度比(%)

8000トとなった。このまま推移すると24年度の製造数量は375万ト前後となり、統計開始以来、最少となる見込みだ。

第3四半期は新規合材が36万8000トで前年同期比1・4%増、再生合材は11・6%減の85万トで、合計は8・1%減の121万8000トとなり、第1・第2四半期からさらに悪化した。他の工事に比べ舗装工事の発注が大幅に減少する中、各県の道路損傷が進み、早期の予算化が必要なことに加え、資材の高騰や運搬など経費の増加、電力費高騰で各プラントの経営は悪化しており、「さらなる合材単価への転嫁が必要」としている。

各県の四半期累計は、青森県が前年同期比9・3%増で、

NEXC O関係の出荷が増えた三八地区が48%増、東青地区も10%増だった。岩手県は0・5%の微減で、宮古・釜石地区は19%減と厳しい状況が続く。宮城県は石巻・気仙沼地区が24%減、仙台地区は13%減、県北も4%減と全体で13・1%減と第1・第2四半期からの減少傾向が続いている。

秋田は4・5%減で秋田・由利地区が8%減、鹿角・北秋田・山本も4%減だった。山形県は置賜地区が高規格道路開通後の反動減で40%と大幅に減少し、庄内地区は20%減、最上・村山地区も16%減と全体で23・3%減と停滞した。福島県は2・4%減で、会津地区が1%増、浜通り地区は増減なし、県北は9%減、県中は2%減だった。

